

日本作業科学研究会ニュース — 作ら，さくら — 第18号



発行年月日 2015年9月19日

発行者 日本作業科学研究会広報係

ウェブサイト <http://www.jssso.jp/>

巻頭言

『護れないもの』

酒井ひとみ

(日本作業科学研究会副会長/関西福祉科学大学保健医療学部)

今年も理学療法学専攻の3年生対象に作業療法学という科目を受け持った。例年，テキスト指定はせずに，参考書として作業療法概論や作業療法にまつわる理論や作業モデル系の本を指定している。

何回目かの授業の帰り際に，教卓のとある本が目に残ったのか一人の学生が「OT理論ってあるんですね!!」，「PTではそんな本無いな。」と呟いた。「鋭い!!」，「このようなタイトルの本がOTに有ってPTに無いわけを，追々話しますね。」と内心嬉しく応答した。

かつて10年間PTとOTの学生合同でOT・PT概論という科目をPTの教員と受け持っていたことがある。それぞれの専門職の独自性や協業を考慮することを目標とした演習と実習中心の授業だった。何年か一緒にやっていくうちにPTの教員が学生に「OTには哲学が有ります，OT理論を大事にしています。」と話してくれるようになり，ほくそ笑んだ。

ところが，昨年衝撃的な経験をした。それは，ある地域のOT学会のシンポジウムに参加した時のことだ。各領域で活躍されていると思われるシンポジストの方々に，OTへの熱き想いと実践とその背景にある理論について話してもらい，そこから共通するOTの基盤となるものは何かを確認するという企画だった。事前に，背景となる理論については質問させていただき旨を伝えていたこともあってか，おおむね自分の実践に対する理論を紹

介してもらえた。しかし，熱き想いを語り実践を紹介できても，理論不在というシンポジストが存在したのである。では，どうやって何を学んだのか? 「先輩の真似をして。」では，どんな意図で先ほどのプレゼンをされたのか? 「自分が作ったものでないからわかりません。」と，平然と言い放たれてしまった。は～? 意味わからん!! 理論アレルギーみたいな話とは次元が違う。しかも，教育者・研究者の立場の方だった。いったい，何を教えるのだろうか? たまたまうまくいった経験ですか? 神業的なテクニックですか? それともOTセンスの良さをひけらかすんですか? いまでも，思い出だけで私の全ての細胞が怒りで震える。実践のみに終始し，まとめる事もなく，理論として実践を知識という形に落とし込む行程もなく終わるなら，それは，自己満足の何ものでもない。一代限りの自己満足となり，不毛で終わる。これは，専門職としてはあり得ない醜態だ。

ここまで興奮気味に書いていた私の手元に，医学書院の週刊医学界新聞(NO.3139)がとどいた。タイミングのいいことに，一面对談のテーマは，「臨床こそ看護理論を」というものだ。「臨床こそOT理論を」と置き換えて読んだ。ここで南裕子氏は，うまく理論を臨床で活用するには，コアとなる哲学や信条が自分に合う理論を選ぶことが前提であると述べている。なるほど，作業科学(Occupational Science : OS)に出会ったのは，ちょうどOTの独自性や学問的背景を明快に説明

できないもどかしさを抱えていた頃だった。1995年の札幌で開催された全国研修会のプレワークショップ（第1回の作業科学セミナー）で Florence Clark 氏と Ruth Zemke 氏からレクチャーを受けた。OS は、OT の歴史的背景を踏襲する形で OT の統一した視点を持ち、作業が健康にとって重要であることが広く公に認知されて始めて専門職が

評価されるという文脈を成立するべく 1989 年に誕生した。私は、臨床の経験をまとめていく過程で、私が希求している作業療法はやっぱり“作業”だったと気付いたことをきっかけに、新しいけど伝統的な学問である OS を私の OT 実践の背景となる理論として学ぶようになった。

研修会開催報告 『第3回作業科学にまつわる研究法研修会in茨城』

渡辺慎介

（日本作業科学研究会研究推進班/YICリハビリテーション大学校）

去る5月16日～17日に、茨城県立医療大学にて「第3回作業科学にまつわる研究法研修会」を開催しました。2回目の参加の方もおられ、21名の方にご参加いただきました。今回講師をされた齋藤さわ子先生はじめ、茨城県の皆さんにご協力いただきながら無事開催することができました。この場を借りて御礼申し上げます。

昨年のこの研修に参加された方の多くが山口県での作業科学セミナーで発表され、本研修をきっかけに研究に取り組まれることは本研修の意義を強く感じます。初日は作業科学入門、研究法概論、作業科学研究論文の読み進め方といった例年と同じ企画で、2日目は齋藤さわ子先生がご自身の博士論文を紹介しながら「作業科学研究の進め方」として講演されました。そして、最後に参加者2名が、現在取り組んでいる研究を話題提供され、それを基にどのように研究を進めていくのかを参加者全員でディスカッションしました。

個人的には作業科学入門で講師を務めさせていただき、緊張しながらも無事大役を果たすことができました。準備する過程や講義後に建設的なフィードバックをいただき、作業科学に関する知識を深くすることができました。やはり発信することで得られることって多いですね！

日本における作業科学研究はその論文投稿の数からもまだまだ進んでいません。この研修を通して作業科学研究に取り組む方が増えることを願っ

ています。セミナーでの発表のみならず、機関誌「作業科学研究」への投稿も目指していきましょう！私自身も現在研究を進めており、作業科学研究について語り合える仲間を1人でも多く作りたく思っています。

現在検討中ですが、来年以降、本研修会2回目以上参加の方は1日のみの参加を可能とする等、多くの方が参加しやすい形態を考えています。また、作業科学研究の進め方に関するディスカッションも参加者が発言しやすいような環境も作っていきたく思っています。第4回研修、これまでの反省を踏まえてより進化した研修になりますよ！引き続き本研修をよろしく願いいたします！



研修会参加者感想 『第3回作業科学にまつわる研究法研修会に参加して』

大谷将之

新泉一美

(障がい者支援センターてらだ 作業療法士)

5月16, 17日に茨城県立医療大学であった作業科学研究法研修会に参加させていただきました。この研究法研修会は去年引き続き2回目の参加になります。

去年参加した時は作業科学のことや研究のことなど、たくさんの情報量で頭の中がいっぱいになると同時に心地よい疲労を覚えています。そこからまた勉強し、今回2回目の参加では、以前は理解できなかったことが分かるようになってきました。臨床の中で、作業の視点で物事を見るようにしていると、作業科学で用いられる用語や、その意味を通った形で理解することができたからだと思います。また、理解したつもりにならず、反復して学ぶことが大切であると思いました。

今回は研修会の中で行われるワークショップの話題提供をさせていただきました。ワークショップでは様々なレベルでの研究の悩みや困っていることについてディスカッションをします。その中で僕は臨床の中で抱えている漠然とした悩みについてお話させていただきました。「こんな漠然としたレベルでいいのだろうか？」と戦々恐々でしたが、様々な意見や質問などを通していくなかで、何を問題と感じ、何を明らかにしたいのかという問題の中核が見えてきて、ハッとさせられました。問題が焦点化されるとおのずとどのような方法での研究ができそうかなど道筋が見えてきて、最後には「このような経験ができて本当によかった」と強く思いました。また懇親会では様々な場所で、様々な領域で働いているOTと語り合うことはとても刺激的で、作業療法の楽しさや面白さなど共有でき、たくさんのエネルギーをもらいました。

たくさんの実りある研修会になると思いますので今後興味のある方は是非参加してみてください。また参加したことがある方も是非リピーターになってみてください。

(多摩リハビリテーション学院作業療法学科教員)

平成27年5月16・17日と茨城県立医療大学で開催された「作業科学にまつわる研究法研修会」に参加しました。参加しようとしたきっかけは、作業療法の理論モデルである「人間作業モデル」や「カナダ作業遂行モデル」、作業療法介入プロセスモデル(OTIPM)を学んだとき「作業」ってなんだろう。また「作業科学をもとに研究するとはどういうことなんだろう」と思ったからです。私は、作業療法士になって19年になりますが、作業科学については本を読む程度しか経験がありませんでした。

今回の研修は1日目に、渡辺慎介先生による「作業科学の基礎」、酒井ひとみ先生による「研究法の種類・方法」、近藤知子先生による「作業科学の文献の読み方、解釈」が行われました。懇親会を挟んで2日目は、斉藤さわ子先生による「斉藤先生自身の研究のきっかけ」、最後にワークショップと盛りだくさんの内容でした。ワークショップでは、「今の職場でどのようにすれば作業科学的に研究が行えるか」など事細かにアドバイスが頂けるとてもありがたい場でした。疑問や聞いてみたいことなどありましたが、初めての参加で遠慮してしまったことを後悔しました。

今回の研修会で学べたことは、「作業科学」は、作業的存在としての人間を研究する為の分野であり、作業に焦点を当て、作業の形や機能、意味を研究する為の学問であり、学問的に学ぶこと。基本的な研究法を理解して、作業科学の専門的な文献を正しく読み、解釈する。そしてなんといっても、「自分の信念をしっかりと持って研究に向かう」ことの大切さを学び、感じ取ることができました。本当に参加できてよかったです。これをきっかけに作業科学研究会に入会しようと思いました。

研修会・セミナーのお知らせ

「第3回作業科学を実践に繋げる研修会」募集要項

過去2回、愛知県、東京都で開催した「作業科学を実践に繋げる研修会」を今回は西日本初！福岡県で開催いたします。皆様のご参加心よりお待ちしております。

日時：平成27年10月4日（日）9：30～16：00（受付9：00～）

開催場所：麻生リハビリテーション大学校（福岡県福岡市博多区東比恵3-2-1）

プログラム：

9：00～9：30 受付

9：30～11：00 「わたしの作業の捉え方、過去と未来～作業科学との出会いがもたらしたもの～」

報告者 下関リハビリテーション病院 作業療法士 村谷翔一

福岡リハビリテーション病院 作業療法士 田代徹

11：15～12：30 作業科学入門「人はどのように作業をするのか」

講師：愛知医療学院短期大学 作業療法士 港美雪

12：30～13：30 休憩

13：30～15：45 ワークショップ「臨床実践に作業科学論文を応用すること」

コーディネーター：社会医学技術学院 作業療法士 西野歩

15：45～16：00 閉会式

定員：50名（最少催行人数：35名 〆切日に35名に達しない場合は研修を中止にします）

参加費：日本作業科学研究会 会員5000円 非会員7000円

申込・問合せ先：専門学校YICリハビリテーション大学校 作業療法学科 渡辺慎介

〒759-0208 山口県宇部市西宇部南4丁目11番1号

E-mail：practiceworkshop@jssso.jp

申し込み締め切り：平成27年10月1日（木）

※①氏名②ふりがな③所属④職種⑤都道府県⑥メールアドレス⑦電話番号を明記の上、上記アドレスまでお申込み下さい。申込後参加受付の返信をいたします。

こんな勉強会しています！ 『～東京作業科学研究会 MonStera～』

東京作業科学研究会MonStera. 現在、社会医学技術学院で毎月（だいたい）第一金曜日、19時～21時。作業科学を学ぶための会です。西野歩氏の呼び掛けで、わずか3～4名の新米OT達が集まり「作業ってなんだろう」の輪読を開始。現在では30名近くの多彩な分野のメンバーが立ち替わり参加しています。現在の活動は「対象者を作業的存在として理解するために学ぶ」ことを理念に、論文の抄読と批判的吟味、作業を通しての事例検討（いわゆる悩み相談）、そして私たちの交流を通し学んでいます。

そしてそして、なにより参加費がなんと100円!!という破格の値段なのです。ちなみにMonSteraは壮大な計画という花言葉。作業科学を学びたい方、よく分からんけど学びたい方、一緒に悩んで語り合いましょう～♪興味のある方は是非ともお声かけ下さい。

第19回作業科学セミナー開催について

小田原悦子

(第19回作業科学セミナー実行委員長/聖隷クリストファー大学)



11月28-29日開催の「第19回作業科学セミナー」実行委員から，みなさまに残暑お見舞い申し上げます。さわやかな季節にあなたの「作業と健康への知的好奇心」を満喫し，興味を分かち合う人々と議論を交わし，共に前進しようではありませんか？

8月26日現在52名の方から参加申し込みをいただいております。参加には十分な余裕があります。作業，作業科学に興味のある方奮って申し込みください。実

行委員一同お待ち申し上げます。

今回の作業科学セミナーは，Transition（移行）がテーマです。私たちは誕生以来絶え間なく作業に従事して成長し，周囲の人々と交流し，社会を支え，家族を作り，次の世代へつなぎ，各々の人生を完成させます。その途上，様々な出来事を経験しては，作業を通してその節目を乗り越えてゆきます。作業療法士は，病気，障害，老い，災害など多様な状況にある人々に寄り添い彼らとそのライフラインを乗り越えるように援助します。そこに作業の力強さがあります。

基調講演として，アイルランドにあるコークカレッジ大学のJeanne Jackson 先生に「高齢期に意味ある存在を生きる」を講演いただきます。作業科学セミナーの創設者であり，日本の作業科学の父である佐藤剛記念講演として，スウェーデンのカロリンスカ研究所の浅羽Eric先生に「Transition: 移住，教育，就労を通しての考察」をお話いただきます。学会テーマのシンポジウムは，帝京科学大学近藤知子先生にコーディネーターをお願いし，人類学，都市計画，看護学から，Mark Hudson, Kyla Matias, 濱畑章子先生に専門領域からお話いただきます。皆様に参加していただくワークショップも計画しています。文京学院大学の西方浩一先生がコーディネーターとなり，参加者が持参する「作業的写真」を使って，臨床にも役立つ作業の視点を身につけるワークショップを行います。

最後に，実行委員からワークショップと宿泊について，2点大事なお願いがあります。

1. ワークショップ「作業的写真」では，参加者に「作業的写真」を持参していただき，それを使って，

話を引き出し，作業の視点を体験していただきます。あなたの「作業的写真」を持参してください。自分か家族など親しい人が日常の作業をしている写真，日頃の生活の一枚です。作業療法場面でなく，日常の作業の場面がオススメです。A4判のコピー用紙にカラー印刷した写真，1～2枚です。よろしくお願ひします。多くの方が作業の視点を体験することを祈っております。

2. 遠方から来られる方に宿泊についての注意

作業科学セミナー開催の11月下旬に浜松駅付近で国際ピアノコンクールが開催され，ホテルの予約が困難になることが予想されます。早めの予約をお勧めします。

では，みなさま，さわやかな浜松でお待ちしています。

SSO:USA Society for Study of Occupation 2015

小田原悦子

(啓発・国際情報班/聖隷クリストファー大学)

SSO:USA Society for Study of Occupation 2015が, 10月1-3日に開催されます。

場所は, アメリカ・フロリダ州, フォート・ローダーデールです。

アメリカ作業科学研究会は, アメリカを中心に各国から作業科学者が集まるかなりアカデミックな会合で, じっくりと作業について討論し合います。

1日目午後はワークショップ, 夜にウェルカム・レセプションがあります。

2・3日目が発表です。2日の午後にactivity balanceという, 自由に作業をしましょうというプログラムがあり, 楽しむのもこの会らしい経験になります。

私も発表します。“Translating collective occupations to Japanese culture: Uchi (Inside) in an occupational therapy group session” (共同作業の日本文化への応用: 作業療法グループセッションにおけるウチ)

興味のある方は, 以下のHPをご覧ください。

<https://www.sso-usa.org/cms/>

2014年度 第3回日本作業科学研究会理事会 議事録

日時: 平成 27 年 6 月 21 日(日)14:00~16:00

場所: 兵庫県芦屋市

出席者: 吉川, 酒井, 西方, ボンジェ, 近藤,

小田原, 渡辺, 村上, 古山

【審議事項および報告事項】

1. 日本作業科学研究 投稿規定の変更について

・機関誌作業科学研究の原稿は Word 等の文書ソフトを使用して作成し, 電子メールでファイルを送信する。今後は原稿の郵送は行わない

・以上の変更に伴い, HP の内容を変更する (ホームページ担当)

2. 日本作業科学研究 印刷会社の変更について

・新体制に伴い, 印刷業務や発送業務をこれまでと異なる会社に委託する

3. 日本作業科学研究 第 10 巻の予定内容

・浅羽氏による佐藤剛記念講演論文と Jackson 氏

による基調講演について, 第 19 回作業科学セミナー実行委員長から事前に掲載原稿の依頼を行う

・実行委員が中心となって作業科学研究に論文を投稿するよう努力する

4. 研修会の補助予算の決定, 予算執行 (備品と人件費) について

・各研修会に対して 50,000 円の補助金を計上しており, 今後も継続する

・研修会は可能な限り独立採算で行ない, 予算の執行については各研修会の裁量で行う

5. 第 3 回作業科学を実践に繋げる研修会の開催について

・現在, 企画・準備中

6. 担当者と活動内容の確認

- ・各班の委員が決定し, 委嘱状を配布した
- ・委員の委嘱期間は担当理事の任期が終了するまでとする

7. 年間スケジュール

- ・選挙が終了した後, その年度内(3月中)に委嘱状を発行し, 委員を決定する
- ・来年からは3月に会費納入案内を送り, 7月を会費納入期限とする

8. 啓発・国際情報班

- ・JOS アブストラクトの翻訳について, 理事が積極的に参加する

9. メーリングリスト担当

- ・現在, 参加者113名, 毎月1~2名ほど新規に参加者が増加している
- ・現在は, 研修会, 勉強会の案内が中心

10. 第19回作業科学セミナー準備状況

- ・プログラムの内容が決定し, ホームページに掲載した。また, ちらしを作って作業療法学会等で配布した
- ・ポスター発表は10名を予定している。プレゼンテーションの時間は設けないが, ディスカッションを促す目的でポスター発表にも座長を置く。ポスター発表の座長は依頼済
- ・会場から徒歩10分の場所でレセプションを行う。
- ・作業科学セミナーは可能な限り独立採算で行い, 算執行は実行委員会の裁量で行う
- ・赤字にならない対策として, 参加者を増やすよう広報に力を入れる, 節約できる部分を探す
- ・以上を踏まえて, 再度予算案を見直す予定

11. 第20回セミナー準備状況

- ・第20回作業科学セミナーの実行委員長は堀部恭代氏(愛知医療学院短期大学)

12. 事務局

- ・5月31日現在で会員数は197名。昨年に比べて若干少ない
- ・会計と名簿の管理は村上理事が担当し, その他は古山理事が担当する

(ニュース編集担当 村上典子 西野歩)